

づいて現実に対策をとろうとする時、難しい問題に直面することが十分考えられる。主に政治家、外交官、行政官が活躍する政治的交渉の場となっている締約国会議において科学的知見に関する発言の大切さと同時に難しさも痛感した。

不確実な科学的知見の中で防止対策を講じる際には、一般には「後悔しない政策：地球温暖化が将来生じなくても、投資が無駄にならない政策、たとえば省エネ等」が採用される。環境に関しては「後悔しない政策以上の政策」が必要との議論があった。地球温暖化が予想されるほど起きることがなく、仮に防止対策が無駄になっても予防対策は取るべきであるとする意見である。この政策を採用した場合に危惧されることは、限られた予算状況のなかで、予算を必要としている他の重要な分野を資金的に圧迫する可能性はないのかという点である。この政策をとる場合には、対策を

採ることにより生じる他分野への影響の評価が特に大切であると思われる。

似たようなことが研究の分野（例えば気象）についてもある。最近、気候変動、地球環境等の気象研究に多額の研究費が投入されているが、これが気象の他分野の研究を圧迫していることはないのかという点である。気象の分野は乱流等のようにミクロな研究から気候変動等のようなマクロなものまでいろいろある。いずれの分野も学問的には重要であり、現在の強い社会的ニーズの有無にかかわらず発展させることが重要である。このような備えによって、新たな社会的ニーズに対応することができる。バランスのよい研究費の投入が大切に思える。

今回の会議に出席し、科学と政治、不確実な科学的知見と政策決定のあり方、社会的ニーズと研究費投入のあり方等々考えさせられるものがあつた。

### 日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
1997年地球惑星関連学会合同大会	1997年 3月25日 ～28日	地球惑星関連学会共催	名古屋大学東山キャンパス (名古屋市)	国立極地研究所南極圏環境モニタリング研究センター 塩原匡貴 Tel. 03-3962-4740 Fax. 03-3962-4914
海洋理工学会 平成9年度春季大会	1997年 4月18日 ～19日	海洋理工学会	東京水産大学 (東京都港区)	海洋理工学会事務局 (東海大学海洋学部海洋工学科内) 千賀康弘 Tel. 0543-34-0411 (内3424) Fax. 0543-34-9983 e-mail : senga@scc. u-tokai. ac. jp
日本気象学会 1997年度春季大会	1997年 5月21日 ～23日	日本気象学会	筑波大学学生会館 (茨城県つくば市)	気象学会つくば大会97事務局 (筑波大学地球科学系) Tel. 0298-53-4502 Fax. 0298-51-9764
日本農業気象学会 1997年度全国大会 (日本生物環境調節学会との合同大会)	1997年 6月 6日 ～ 8日	日本農業気象学会 日本生物環境調節学会	京都大学農学部 (京都市)	1997年度農気・生環合同京都大会事務局 (京都大学農学部) Tel. 075-753-6048 Fax. 075-753-6068